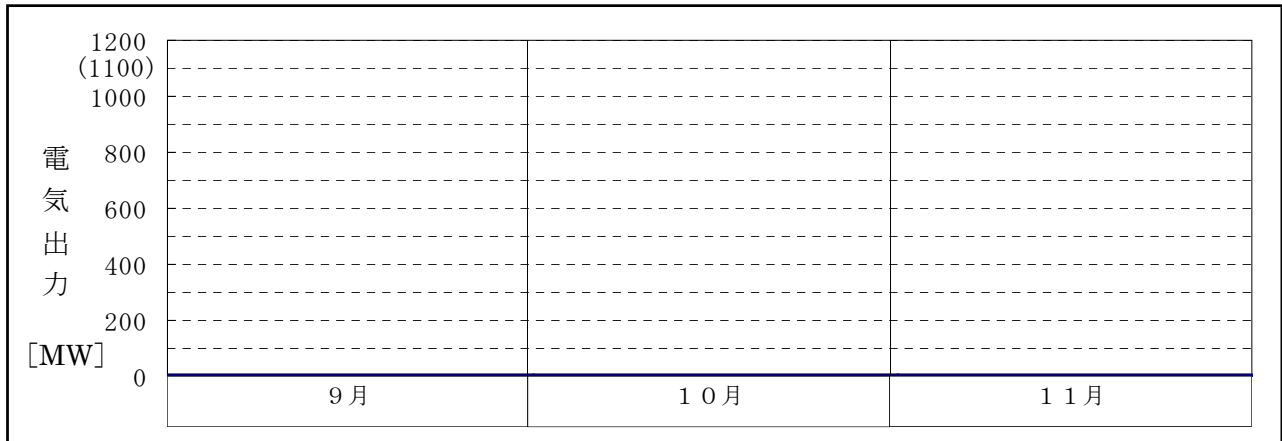


東通原子力発電所の現在の状況について

1. 運転状況

- 平成 2 3 年 2 月 6 日より第 4 回定期事業者検査を実施中

2. 電気出力（ 令和 2 年 9 月 ～ 令和 2 年 1 1 月 ）



3. その他

(1) 東通原子力発電所 1 号機における新規規制基準適合性審査の状況について

- 平成 2 6 年 6 月申請以降，継続的なヒアリングや審査会合において当社の申請内容を説明してきており，これまでに審査会合は 2 6 回開催されております。
- 令和 2 年 1 0 月 2 3 日の審査会合においては，基準地震動^{※1}の策定に向けた審査のうち，「海洋プレート内地震^{※2}の地震動評価」について審議されました。
- 当社からは，東通原子力発電所敷地周辺で発生する海洋プレート内地震の特徴について整理し，敷地の施設等に対して影響の大きい地震として，敷地前面の海洋プレートの内部でマグニチュード 7. 5 の地震（二重深発地震上面^{※3}の地震）が発生することを想定し，この地震の評価について説明しました。
- これに対し，当社の評価結果に異論はありませんでしたが，評価の検討条件や方法，不確かさの設定の考え方等について詳細説明を求められたことから，今後の審査において対応してまいります。

※ 1 : 原子力発電所の耐震設計において基準とする地震動であり，敷地周辺において発生する可能性がある最大の地震の揺れの強さを示すもの

※ 2 : 大陸プレートに沈み込む（沈み込んだ）海洋プレート内で発生する地震。

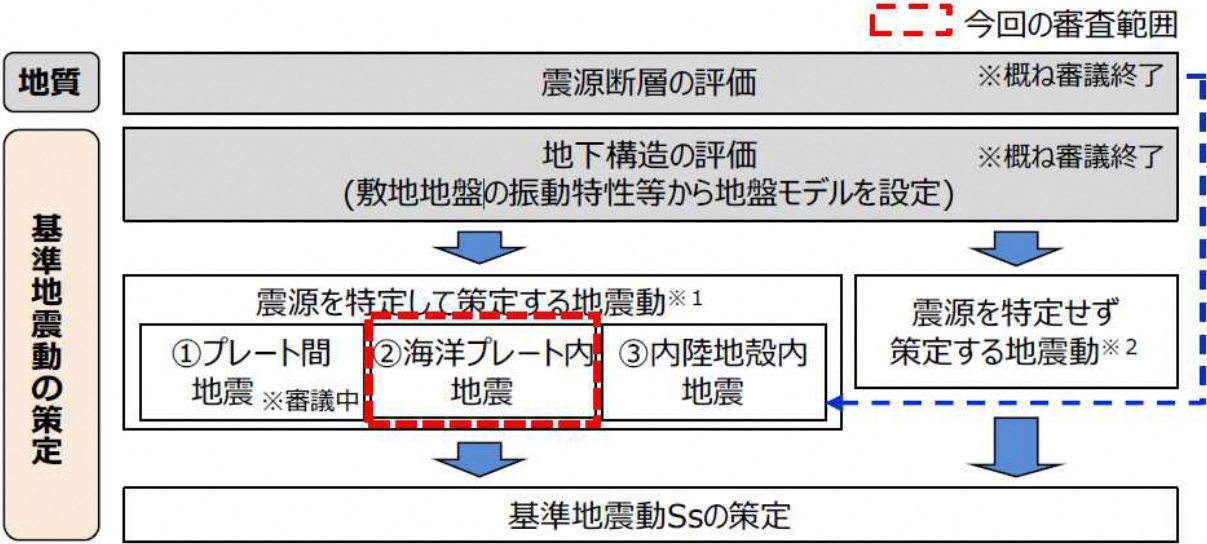
※ 3 : 深発地震の震源の分布は，プレートの沈み込み帯において，沈み込む側の海洋プレート内部の上面部分と，やや下面の二重の面を形成する。その二重地震面の上面。例えば，2011 年 4 月 7 日宮城県沖の地震(M7. 2) は，この位置で発生した。

(別紙 1) 基準地震動の審査

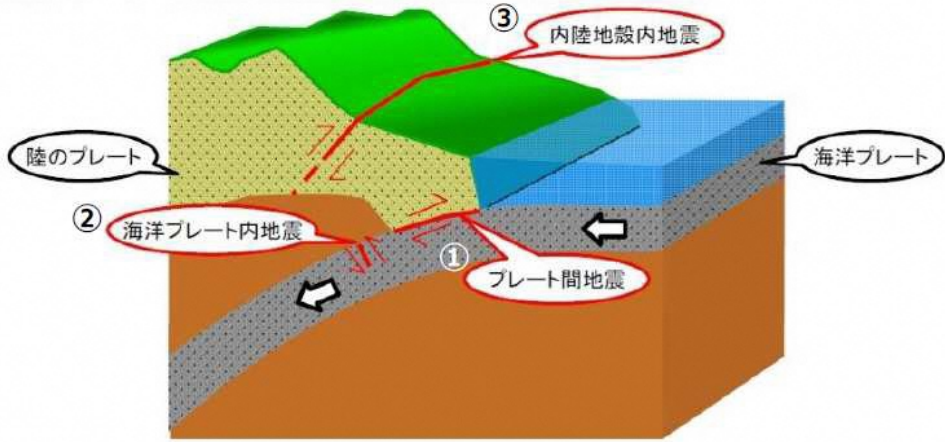
詳細については，当社ホームページから確認することができます。

(<https://www.tohoku-epco.co.jp/>)

基準地震動の審査



- ※ 1 敷地周辺の地震の発生状況や「震源断層」をもとに評価する地震動
- ※ 2 全国共通的に評価する地震動



地震発生様式の模式図